

巻頭言

日本音楽即興学会編集委員会副委員長 田中 順子

JSMIM ジャーナルは前号の Vol.5 より定期刊行となり、ますます学術誌として内容の充実を図ろうとしているところでございます。ここまで漕ぎ着くことができましたのも、ひとえに会員の皆さまのご投稿とご協力があったることと、厚く御礼申し上げます。

しかし一方、残念ながら論文投稿数が少ないことが、学会創設当初からの課題として残されております。研究成果を論文で発表し多くの人に知ってもらうことは、その学問分野の発展にとって欠くことのできない重要事です。個々人が取り組んでいる実践や研究を広く共有することの意義は計り知れません。

論文が書けるようになるコツは楽器演奏や語学学習と同じで、とにかく実際に書いてみるのだと言えます。いくつか論文を読むと、論文の構成や流れが分かってきます。最初は自分の発表に近い論文を見本にして書くというのも良い方法です（文章や内容をそのまま使用すると盗作となるので注意してください）。書き上げたら投稿する前にどなたかに読んでもらい意見をもらいましょう。そして投稿さえしていただければ、査読者がていねいにアドバイスをしてくれます。査読者とのやりとりを通して、自分の考えが整理され、論考が深まり、論文としての体裁も整っていきます。

勇気などは必要ありません。気楽に、でも行動を起こしましょう（7月末の締め切りまで、時間はたっぷりあります）。

ところで、学術誌といってもその内容は各学会や出版社により多様であり、論文掲載を中心としたものだけでなく、特集や座談会企画、人物インタビュー、実践現場の紹介、〇〇講座シリーズ等々、あらゆる手を尽くして読者のニーズに応えようとしています。本誌も、論文だけではなく、所感や他学会の大会報告、書評等々、何でも歓迎しますので、まずはお送りください。

最後になりましたが、今後さらに求められる学術誌を目指すために、ぜひとも本誌に対するご希望、ご意見もお寄せいただければと存じます。本誌が一部の研究者だけのものではなく、会員全員で作り上げ盛り立てていく存在となることを願っております。